

野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> <li>・スイートコーン</li> <li>・ニンジン</li> <li>・シロウリ</li> <li>・セルリーなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイカ</li> <li>・ナス</li> <li>・サツマイモ</li> <li>・オクラ</li> <li>・ゴーヤ</li> <li>・アスパラ</li> <li>・ニラ 等</li> </ul>	<p><b>【スイートコーンこれからの栽培管理】</b></p> <p><b>間引き</b> 葉数が3～4枚の時期が間引きの適期です。1穴の中で小さな苗や極端に大きな苗をナイフやハサミで株元から切り取ります。欠株のところにはあらかじめ育苗しておいた2～3葉期の苗を補植します。</p> <p><b>品質向上</b> 列の乱れ防止 花芽分化期～幼穂形成期（5～8葉期）の悪環境（早魃・高温・低温・浸水・過湿・晩霜・日照不足など）により後の雌穂形成に影響を及ぼします。人為的にできる限りの管理（灌水・換気・栽培ほ場の選定・保湿資材の炉用など）を行うことがこの時期には重要になります。</p> <p>先端不稔回避 受粉期の多雨により花粉不足となることも原因のひとつですが、むしろ生殖器官の形成時期（5葉期前後）に様々なストレスに当たらないようにすることが重要で、その注意点としては「列の乱れ防止」と同様の管理が必要です。</p>
	<b>収 穫</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・ニンニク</li> <li>・シュンギク</li> <li>・キュウリ</li> <li>・ニラ</li> <li>・サヤエンドウ</li> <li>・ラッキョウなど</li> </ul>	

追 肥

草丈が膝高期（葉枚数6～8枚）の時期、雄穂の抽出始めの時期が追肥の適期となります。（窒素、カリを2回で合わせて4～5kg/10a施用）

絹糸抽出後の追肥はほとんど効果がありません。降雨の後か灌水直後のまだ湿り気のある間にウネ間に施用します。なお、追肥に併せて草丈40～50cm（播種後45～50日）の膝から股くらいの時期にマルチを除去し、中耕・土寄せを行うことで枝根の発達が進められ、根張りがよくなり倒伏の軽減につながります。



無除げつ

無除げつ栽培により葉面積を増やし、花粉量を増大させ、光合成生産物を多くするとともに、倒伏を防ぎ、先端不稔の発生を少なくし、増収につなげることができます。

無除げつ栽培を行う場合は、蒸散量に見合うだけの水分補給が不可欠で乾燥時には必ず灌水を行ってください。

かん水

雄穂の抽出始めの頃から葉面積・根量が増加し水分の吸収が多くなります。出穂期から収穫期までの乾燥は、先端不稔・肥大不足・粒のしなびの原因となるので、乾燥が続くときには充分注意してかん水してください。

秋野菜のは種・育苗のポイント

【主な秋野菜のは種時期の目安】

種 類	播種期	定植期	種 類	播種期	定植期
ハクサイ	7/下～8/中	8/下～9/中	ブロッコリー	6/下～7/中	7/下～8/上
レタス	7/下～8/中	8/中～9/上	カリフラワー	6/下～7/中	7/下～8/上
チンゲンサイ	8/下～9/中	9/中～9/下	タアサイ	7/下～9/上	8/中～9/中
ダイコン	8/中～8/下				

## 【高温期育苗のポイント】

育苗は、一般的にはペーパーポットやポリポットなどの他、プラスチックトレイなどを用いたセル成型（プラグ）育苗などの方式があります。夏季の高温期の育苗は、気温・地温・葉温などの上昇を抑制し品質向上や苗の保護が必要となり、そのために遮光資材を使用します。

作物によって遮光率は異なりますが、野菜の場合は20～30%程度の遮光が適することから白の寒冷紗やダンポールなどを利用しトンネルをつくり遮光します。

最適発芽温度は、品目によっても異なりますが葉菜類の多くは概ね18～20前後が適温です。また、生育も20前後の温度が適しており25を超えると生育が抑制されやすくなります。なお、かん水は、朝夕乾き具合を見ながら行いますが、水分過多にならないよう注意します。そして、害虫対策に注意を払うことも重要で、育苗ハウスの周りの除草など環境整備の徹底を図るとともに寒冷紗を張るなど、ハモグリバエやアザミウマ類の侵入を防ぐことも大切です。一方、極力風通しを良くし、苗のムレを起こさないようこまめなハウス管理を行いましょう。



# 農業豆知識

## これからは種する作りやすい花の栽培

### 《コスモス》

キク科のメキシコ原産の植物です。は種後60日前後で開花しますので、10～20日間隔では種すると継続出荷が可能となります。

は種後、60日前後で出荷となり、比較的管理も容易であることから労力も少なくて済みます。

**畑の準備、施肥：**あまり肥沃でない排水良好なほ場が良く、前作に野菜などを栽培した場合は無肥料とします。

**は種：**90cm幅の床を作り、白黒マルチを張り、20cm4目のフラワーネットを張ります。ネット中央のマス目中央に直径5cm程度の穴をあけ2～3粒づつは種します。

**間引き：**発芽し本葉が1～2葉の時に1本に間引きます。

**摘心：**草丈が20～25cm位になったら4～5節で芯を摘み取り、1株当たり4～5本仕立てとします。

**病虫害防除：**ヨトウムシやアブラムシ類の他、うどんこ病には注意が必要です。



### 《ストック》

アブラナ科で肥沃で日当たりと水はけのよい場所を好む植物で、当地では7月中旬は種・10月収穫を標準とし、ハウス栽培が基本となります。

**品種：**極早生もしくは早生品種を用いますが、普通のストックは、一重の株と八重の株がほぼ半々に混ざっているのので、本葉が出始めるころに八重鑑別を行います。

なお、この他八重鑑別がほとんどいらないオールダブルタイプや八重率が高く、鑑別しやすいハイダブルタイプもあります。草姿では、枝分かれせず主茎が伸びる1本立ち系、枝分かれしてたくさん花を咲かせる分枝系があります。

直まき栽培では、オールダブルタイプ、またはハイダブルタイプを用います。

**は種：**育苗での種時期の目安は7月中旬頃であるが、栽培する品種により前後します。

なお、直まきの場合は、これより10日位遅くします。発芽適温は20前後で、は種後3～5日で発芽したら遅れないように新聞紙を除きます。

**八重鑑別：**鑑別は次の生育ステージに3回行います。

発芽揃時・・・発芽が遅く子葉が小さい苗を間引きく。

子葉展開時・・・子葉が大きく葉色が薄い苗を必要苗数の3割増で残したうえで、子葉が小さく丸形で色の濃い苗を間引く。

定植時・・・生育が良い苗から植える。

**定植：**ハウスは遮光資材で被覆し、床幅100cm 通路60cm 条間、株間12cmの8条植え（42本/m<sup>2</sup>）とし、本葉が2～3枚になった時点で、深植えにならないように植えます。茎は一度曲がると戻らないので、フラワーネットを使用し生育に合わせて引き上げます。

**定植後の管理：**日よけは定植後4～7日で活着したら取り除き、日中25以下となるよう換気を徹底し、定植後1ヶ月は十分かん水し、着蕾後は徐々に控えるようにします。



あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
地域係 中澤普及員（25-7156）